

令和 7 年度

統合臨床医学コース（臨床医学入門）の手引き

新潟大学医学部医学科

医学部医学科の教育理念

医学を通して人類の幸福に貢献する

医学部医学科が求める学生像

- ・ 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探究心を有する人
- ・ 協調性に富み、豊かな教養と人間性、社会に貢献するために必要な倫理観を有する人
- ・ 広い視野を有し、積極的に行動できる人

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

医学部医学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学科では、所定の年限在学し、医学科の教育理念「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づき定められた全科目に合格し、科学的姿勢、コミュニケーション能力、人間性、社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につけた学生に学士（医学）の学位を授与する。

新潟大学医学部医学科のアウトカム

I コミュニケーション

卒業生は：
患者・家族及び医療従事者間で適切な
コミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：
以下の医学に関する知識を有し実践に
応用できる。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 各臓器の構造と機能 | 6. 医薬品と薬理作用 |
| 2. 心理・行動 | 7. 医療機器 |
| 3. 病態生理 | 8. 医療行政 |
| 4. 診断と治療 | (予防/保健/福祉/医療) |
| 5. 疫学 | 9. 医療経済 |

III 倫理観と人間性

卒業生は：
患者・利用者の価値観や背景を理解し、個性
を尊重できる。プロフェッショナルにふさわ
しい倫理観をもち、礼節ある態度を示すこと
ができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点を持ち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振る舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：
基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：
保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、
その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：
国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った
医療を実践できる。

1. 地域の実情（伝統や風習）を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：
基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見
し、論理的思考で問題解決をはかることができ
る。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：
生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を
続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探究心、向学心、向上心をもち続けられる。

目 次

統合臨床医学コース 時間割表	1
講義ユニット 自己主導型学習	4
講義ユニット ニューロサイエンス (1)	5
講義ユニット ニューロサイエンス (2)	6
講義ユニット ネフロサイエンス (1)(2)	7
実習ユニット シミュレーション実習 (腹部エコー)	8
実習ユニット シミュレーション実習 (医療面接1)	9
実習ユニット シミュレーション実習 (医療面接2)	9
実習ユニット シミュレーション実習 (注射)	10
グループ学習ユニット 小児の特性	11
講義ユニット 高齢者の運動器	18
講義ユニット 高齢者の循環器	19
講義ユニット 臨床検査の基礎知識	20
講義ユニット 放射線医学	21
講義ユニット 薬害被害者の声を聞く	23
講義ユニット 薬物治療の基礎知識	24
実習ユニット 看護実習	25
講義ユニット 医療事故と医療安全	28
グループ学習ユニット 外科的手技・処置の基礎知識	29
講義ユニット English Communication Skills	32

3 年次生・第 1 学期

令和 7 年度 新潟大学医学部医学科 授業時間割表

第1週 (2025. 4. 1－4. 4)

(大講義室)

時間 \ 曜日	3月31日(月)	4月1日(火)	4月2日(水)	4月3日(木)	4月4日(金)	
8:30 ～ 10:00		10時～11時 統合臨床医学(学年ガイダンス、キャリアパス説明会)	生体防御と感染(ウイルス学)	入学式のため休講	生体防御と感染(ウイルス学)	
10:20 ～ 11:50		生体防御と感染(ウイルス学)	生体防御と感染(細菌学)		生体防御と感染(細菌学)	
13:00 ～ 14:30						
14:50 ～ 16:20						

第2週 (2025. 4. 7－4. 11)

時間	曜日	4月7日(月)	4月8日(火)	4月9日(水)	4月10日(木)	4月11日(金)
8:30 ～ 10:00		統合臨床医学 (医療事故と医療安全 1)	生体防御と感染(細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)	病理総論	生体防御と感染 (ウイルス学)
10:20 ～ 11:50		統合臨床医学 (今までの学びとこれからの学び)				
13:00 ～ 14:30	基礎薬理		補講 (健康診断)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (ウイルス学)	生体防御と感染 (細菌学)
14:50 ～ 16:20						

第3週 (2025. 4. 14－4. 18)

時間 \ 曜日	4月14日(月)	4月15日(火)	4月16日(水)	4月17日(木)	4月18日(金)
8:30 ～ 10:00	統合臨床医学 (外科)	統合臨床医学 (腹部エコー)	生体防御と感染 (ウイルス学)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (ウイルス学)
10:20 ～ 11:50			生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30	基礎薬理	基礎薬理	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (細菌学)
14:50 ～ 16:20			生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (細菌学)

第4週 (2025. 4. 21－4. 25)

時間 \ 曜日	4月21日(月)	4月22日(火)	4月23日(水)	4月24日(木)	4月25日(金)
8:30 ～ 10:00	統合臨床医学 (外科)	基礎薬理	生体防御と感染 (ウイルス学)	病理総論	生体防御と感染 (ウイルス学)
10:20 ～ 11:50			生体防御と感染 (ウイルス学)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30	基礎薬理	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)
14:50 ～ 16:20		生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)

第5週 (2025. 4. 28－5. 2)

時間 \ 曜日	4月28日(月)	4月29日(火)	4月30日(水)	5月1日(木)	5月2日(金)
8:30 ~ 10:00	統合臨床医学 (医療面接1)	昭和の日	生体防御と感染 (免疫学)	病理総論	基礎薬理
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30	基礎薬理		生体防御と感染 (ウイルス学)	生体防御と感染(医動物学)	生体防御と感染 (ウイルス学)
14:50 ~ 16:20				生体防御と感染(免疫学)	

第6週 (2025. 5. 5－5. 9)

時間 \ 曜日	5月5日(月)	5月6日(火)	5月7日(水)	5月8日(木)	5月9日(金)
8:30 ～ 10:00	こどもの日	振替休日	生体防御と感染 (細菌学 講義&試験)	病理総論	生体防御と感染 (細菌学)
10:20 ～ 11:50			生体防御と感染 (細菌学 講義&試験)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30			生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)
14:50 ～ 16:20			生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)

第7週 (2025. 5. 12－5. 16)

時間 \ 曜日	5月12日(月)	5月13日(火)	5月14日(水)	5月15日(木)	5月16日(金)
8:30 ～ 10:00	統合臨床医学 (ネフロサイエンス)	基礎薬理	生体防御と感染 (細菌学)	病理総論	生体防御と感染 (細菌学)
10:20 ～ 11:50			生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30	基礎薬理	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)
14:50 ～ 16:20		生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)	生体防御と感染 (免疫学)

第8週 (2025. 5. 19－5. 23)

時間 \ 曜日	5月19日(月)	5月20日(火)	5月21日(水)	5月22日(木)	5月23日(金)
8:30 ～ 10:00	統合臨床医学 (臨床検査 1)	統合臨床医学 (看護・オリエン)	生体防御と感染 (細菌学)	病理総論	生体防御と感染 (ウイルス学)
10:20 ～ 11:50			生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30	基礎薬理	生体防御と感染 (免疫学)	統合臨床医学 (医療面接 2)	生体防御と感染 (免疫学) * 本試験	統合臨床医学 (放射線 1)
14:50 ～ 16:20		生体防御と感染 (免疫学)	統合臨床医学 (医療面接 2)	生体防御と感染 (ウイルス学)	統合臨床医学 (放射線 1)

第9週 (2025. 5. 26－5. 30)

時間 \ 曜日	5月26日(月)	5月27日(火)	5月28日(水)	5月29日(木)	5月30日(金)
8:30 ～ 10:00	統合臨床医学 (看護実習)	統合臨床医学 (看護実習)	統合臨床医学 (看護実習)	病理総論	生体防御と感染 (ウイルス学)
10:20 ～ 11:50			統合臨床医学 (看護実習)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30	統合臨床医学 (看護実習)	統合臨床医学 (看護実習)	統合臨床医学 (看護実習)	統合臨床医学 (高齢者 2)	生体防御と感染 (免疫学)
14:50 ～ 16:20			統合臨床医学 (看護実習)	統合臨床医学 (実習振り返り)	生体防御と感染 (免疫学)

第10週 (2025. 6. 2－6. 6)

時間 \ 曜日	6月2日(月)	6月3日(火)	6月4日(水)	6月5日(木)	6月6日(金)
8:30 ～ 10:00	基礎薬理	統合臨床医学 (高齢者 1)	生体防御と感染 (細菌学)	病理総論	生体防御と感染 (ウイルス学) * 本試験
10:20 ～ 11:50		統合臨床医学 (医療事故と医療安全 2)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)	生体防御と感染 (細菌学)
13:00 ～ 14:30	基礎薬理 (薬理学実習)	基礎薬理 (薬理学実習)	生体防御と感染 (免疫学実習)	生体防御と感染 (免疫学実習)	統合臨床医学 (放射線 2)
14:50 ～ 16:20			生体防御と感染 (免疫学実習)	生体防御と感染 (免疫学実習)	統合臨床医学 (放射線 2)

3 年次生・第 1 学期

令和 7 年度 新潟大学医学部医学科 授業時間割表

第11週 (2025. 6. 9—6. 13)

(大講義室)

時間 \ 曜日	6月9日(月)	6月10日(火)	6月11日(水)	6月12日(木)	6月13日(金)
8:30 ~ 10:00	統合臨床医学 (臨床検査 2)	統合臨床医学 (ニューロ 1)	統合臨床医学 (放射線 3)	病理総論	病理総論
10:20 ~ 11:50		統合臨床医学 (医学英語)			
13:00 ~ 14:30	基礎薬理 (薬理学実習)	基礎薬理 (薬理学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)
14:50 ~ 16:20					

第12週 (2025. 6. 16—6. 20)

時間 \ 曜日	6月16日(月)	6月17日(火)	6月18日(水)	6月19日(木)	6月20日(金)
8:30 ~ 10:00	統合臨床医学 (臨床検査 3)	病理総論	生体防御と感染(免疫学) * 本試験	病理総論	病理総論
10:20 ~ 11:50			補講		
13:00 ~ 14:30	基礎薬理 (薬理学実習)	基礎薬理 (薬理学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)
14:50 ~ 16:20					

第13週 (2025. 6. 23—6. 27)

時間 \ 曜日	6月23日(月)	6月24日(火)	6月25日(水)	6月26日(木)	6月27日(金)
8:30 ~ 10:00	統合臨床医学 (臨床検査 4)	環境医学	環境医学	病理総論	病理総論
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30	基礎薬理	基礎薬理	生体防御と感染 (細菌学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)	生体防御と感染 (細菌学実習)
14:50 ~ 16:20					

第14週 (2025. 6. 30—7. 4)

時間 \ 曜日	6月30日(月)	7月1日(火)	7月2日(水)	7月3日(木)	7月4日(金)
8:30 ~ 10:00	統合臨床医学 (シミュレーション注射)	環境医学	環境医学	病理総論	病理総論
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30	基礎薬理	基礎薬理	統合臨床医学 (小児 1)	統合臨床医学 (放射線 4)	病理総論
14:50 ~ 16:20					

第15週 (2025. 7. 7—7. 11)

時間 \ 曜日	7月7日(月)	7月8日(火)	7月9日(水)	7月10日(木)	7月11日(金)
8:30 ~ 10:00		環境医学	環境医学	病理総論	基礎薬理
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30	基礎薬理	基礎薬理	統合臨床医学 (小児 2)	生体防御と感染 (細菌学) * 本試験	統合臨床医学 (ニューロ 2)
14:50 ~ 16:20					統合臨床医学 (薬物治療 1)

第16週 (2025. 7. 14—7. 18)

時間 \ 曜日	7月14日(月)	7月15日(火)	7月16日(水)	7月17日(木)	7月18日(金)
8:30 ~ 10:00	生体防御と感染 (総合)	環境医学	環境医学	環境医学	基礎薬理 * 本試験
10:20 ~ 11:50					
13:00 ~ 14:30	生体防御と感染 (総合)	統合臨床医学 (薬害被害)	病理総論	補講	補講
14:50 ~ 16:20		統合臨床医学 (薬物治療 2)			

第17週 (2025. 7. 21—7. 25)

時間 \ 曜日	7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)
8:30 ~ 10:00	海の日	環境医学 * 本試験	生体防御と感染 (総合)	生体防御と感染 (総合)	生体防御と感染 (総合)
10:20 ~ 11:50		補講			
13:00 ~ 14:30		病理総論	生体防御と感染 (総合)	生体防御と感染 (総合)	生体防御と感染 (総合)
14:50 ~ 16:20		* 本試験			

第18週 (2025. 7. 28—8. 1)

時間 \ 曜日	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)
8:30 ~ 10:00	生体防御と感染 (総合)	統合臨床医学 (医学英語)	補講	補講	
10:20 ~ 11:50		医学研究実習導入講義 (予定)			
13:00 ~ 14:30	生体防御と感染 (総合)	補講	補講	補講	
14:50 ~ 16:20					

統合臨床医学コース（臨床医学入門）

大分類	小分類	科目名	ユニット種別	教員
Physician scientist （研究医）の すすめ	脳神経	ニューロサイエンス（1）	講義ユニット	阿部学先生
	脳神経	ニューロサイエンス（2）	講義ユニット	小野寺理先生
	腎	ネフロサイエンス（1）（2）	講義ユニット	山本卓先生
臨床医学入門	自己主導型 学習	今までの学び、これからの学び	講義ユニット	岡崎史子先生
	臨床診断学	シミュレーション実習（腹部エコー）	実習ユニット	上村顕也先生
		シミュレーション実習（医療面接1）	実習ユニット	岡崎史子先生
		シミュレーション実習（医療面接2）	実習ユニット	岡崎史子先生
		シミュレーション実習（注射）	実習ユニット	岡崎史子先生
	小児医学	小児の特性	グループ学習 ユニット	今村勝先生
	高齢者医学	高齢者の運動器	講義ユニット	大橋正幸先生
		高齢者の循環器	講義ユニット	猪又孝元先生
	検査診断学	臨床検査の基礎知識	講義ユニット	大橋瑠子先生
	放射線医学	放射線医学	講義ユニット	堀井陽祐先生 太田篤先生
	病態薬理学	薬害被害者の声を聞く	講義ユニット	茂呂寛先生
		薬物治療の基礎知識	講義ユニット	外山聡先生 金光祥臣先生
	看護学	看護実習	実習ユニット	團原一恵先生 茂呂寛先生
		看護実習を振り返る	実習ユニット	岡崎史子先生
	医療安全学	医療事故と医療安全	講義ユニット	鳥谷部真一先生
	外科学	外科的手技・処置の基礎知識	グループ学習 ユニット	坂田純先生
	医学英語	English Communication Skills	講義ユニット	オリガ先生
帰還追悼式 ※授業の一部として扱います。詳細は、学務情報システムにてお知らせします。				

講義ユニット「今までの学び、これからの学び」

担当教員：岡崎 史子（医学教育学分野）

日 程：4月7日（月）第2時限 10:20～11:50

到達目標：

2年生の時の自分の学びについて省察し、本学のアウトカムに対してどの程度の到達度が認識する。

アウトカム：

1. 2年生までの自分の学びについて省察できる。
2. 本学のアウトカムを再度認識し、自分の到達度を検討できる。
3. 医学教育モデルコアカリキュラムについて理解する。

学習方法：

アウトカムに対しての自分の学びの程度を記載する
医学教育モデルコアカリキュラムについて学ぶ

授業実施形態：対面授業（大講義室）

担当教員（内線、メールアドレス）：

医学教育センター 岡崎史子（0832、fokazaki@med.niigata-u.ac.jp）

講義ユニット「ニューロサイエンス（１）」

担当教員：阿部 学（脳研究所 モデル動物開発分野）

日 程：6月10日（火）第1時限 8:30～10:00

到達目標：

本講義の目的は、脳高次機能を担う分子機構や神経・精神疾患の遺伝的要因と、それらを解明する手法について理解することである。基礎医学研究における動物実験やヒト疾患モデル動物の重要性を踏まえつつ、記憶・学習の基礎過程であるシナプス伝達の可塑性の分子機序が遺伝子改変マウスを用いて証明されてきた経緯や、脳科学研究における最新の成果を例として、分子と生体をつなぐ研究材料となる遺伝子改変動物の作製及び解析技術の発展について紹介する。

アウトカム：

1. シナプス伝達と可塑性の分子機序を理解できる。
2. 脳機能の分子レベルでの解析の意味を理解できる。
3. 遺伝子改変動物作製方法の原理を理解できる。

学習方法：

- 1) 1コマを90分として1コマで構成されている。
- 2) スライドによる講義を聴講する。
- 3) 講義の後にレポート形式の課題を課す。

授業実施形態：対面授業（大講義室）

担当教員（内線、メールアドレス）：

脳研究所 阿部 学（0621、manabu@bri.niigata-u.ac.jp）

講義ユニット「ニューロサイエンス（２）」

担当教員：小野寺 理（脳研究所 脳神経内科学分野）

日 程：７月１１日（金）第３時限 13:00～14:30

到達目標：

本講義の目的は、新潟大学脳研究所の最新研究成果を中心に、脳高次機能を担う分子機構や神経・精神疾患の遺伝的要因とその解明手法について理解することである。とりわけ、脳研究所で進められている神経変性疾患の分子病態解明研究に焦点を当てる。新潟大学脳研究所独自の成果としてトランスレーショナルリサーチについても紹介する。

アウトカム：

1. 新潟大学脳研究所で解明された神経変性疾患（CARASIL、遺伝性脊髄小脳変性症、ALS など）の分子病態について説明できる
2. 脳研究所が確立した神経疾患の新規バイオマーカーとその臨床応用について説明できる
3. 脳研究所で進められている脳神経回路の機能的・構造的解析技術とその成果について理解する
4. 脳研究所の国際共同研究ネットワークを通じた最新の神経科学研究成果について説明できる
5. 基礎研究から臨床応用への橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ）における脳研究所の取り組みを理解する

学習方法：

- 1) 講義：分子神経科学の基礎知識と新潟大学脳研究所の最新の研究成果について解説
- 2) スライド資料：主要な実験結果や分子モデルの視覚的理解を促進
- 3) ディスカッション：臨床的課題と基礎研究の統合についての議論

脳研究所 HP を参照下さい

授業実施形態：対面授業（大講義室）

担当教員（内線、メールアドレス）：

脳研究所 小野寺 理（0663、onodera@bri.niigata-u.ac.jp）

講義ユニット「ネフロサイエンス (1) (2)」

担当教員：山本 卓 腎研究センター 腎・膠原病内科学分野

日 程：5月12日（月）第1時限 8:30～10:00 第2時限 10:20～11:50

科目の概要（科目のねらい）

慢性腎臓病患者は増加傾向にあり日本では5人に1人発症していると想定されている。また末期腎不全のために透析療法を行っている症例は依然として多く、かつ様々な合併症のため生命予後だけでなく生活の質が損なわれている。それらを克服するため、基礎研究と臨床研究が進められている。

これまでの研究の成果と現在の問題点について学習し、研究の重要性について理解する。

到達目標：

- ・腎疾患の現況、腎疾患の成因、慢性腎臓病対策について理解する。
- ・現在の臨床に対する課題に取り組む基礎研究と臨床研究の一旦を理解する。

アウトカム：

- ・慢性腎臓病対策の現況について説明できる。
- ・腎疾患と他臓器疾患との関連について説明できる。
- ・基礎研究と臨床研究の意義を腎臓病の視点から説明できる。

学習方法：

- ・講義 対面授業（大講義室）

担当教員（内線、メールアドレス）：

山本 卓（2200、yamamots@med.niigata-u.ac.jp）

実習ユニット「シミュレーション実習（腹部エコー）」

担当教員：上村 顕也（総合診療学）

日 程：4月15日（火）第1時限 8:30～10:00 第2時限 10:20～11:50

到達目標：

臨床現場で頻繁に活用するエコー検査を経験し、

- 解剖学や生理学など基礎医学の重要性を再認識する
- 臨床医学の検査を実施し、その意義を学ぶ。

アウトカム：

1. エコー検査の基本を説明できる。
2. 腹部エコー検査を実施し、基礎医学の知識の重要性を認識する。
3. 臨床現場でエコー検査がどのような場面で活用されているか、理解する。

学習方法：

超音波検査の基本を講義、シミュレータを用いた腹部領域のエコー検査を実体験する。

授業実施形態

対面授業（大講義室）

授業時間外学修・使用テキスト

講義に参加して学んだ内容を重視し、指定教科書は特に設けない。

担当教員（内線、メールアドレス）：

総合診療学 上村 顕也（2173 kenya-k@med.niigata-u.ac.jp）

実習ユニット「シミュレーション実習（医療面接１、２）」

担当教員：岡崎 史子、福井 直樹、Razvina Olga、青木 亜美（医学教育センター）、
長谷川 隆志（総合診療学講座）、池上 龍太郎（循環器内科）、今西 明（地域医療分
野）、藤原 和哉（血液・内分泌・代謝内科）、庄司 圭介（小児科）、馬場 晃弘（総合診
療学講座）、未定（精神科）、

科目の概要：

医師としてのコミュニケーション能力の醸成のため、１回目はコミュニケーションの基本について学
び、２回目は模擬患者さんと医療面接を実施する。

科目のねらい：

患者医師関係を構築するのにコミュニケーションスキルは欠かせない。視線、あいづちなど基本的な
非言語的コミュニケーションについて学び、共感的な態度を示しながら基本的な医療面接を実践する。

到達目標：

- 1 視線、あいづちなど基本的な非言語的コミュニケーションについて配慮できる。
- 2 基本的な医療面接が実施できる。
- 3 誠実で丁寧な態度で接し、患者さんとの信頼関係を構築できる。

学習方法：

基本的なコミュニケーションについて、講義を聞く
視線、あいづち、目線の高さなどと印象についての実習を行う。
同級生とロールプレイを実施する
模擬患者さんに対して医療面接を行い、自己省察、他者からのフィードバックを受ける
同級生の医療面接を見て、コミュニケーションについてさらに学ぶ。

授業形態・日時：

- ・医療面接１ ４月 28 日（月）第 1・2 時限 8:30～11:50 （大講義室）
- ・医療面接２ ５月 21 日（水）第 3・4 時限 13:00～16:20 （総合研究棟 3 階、4 階）

授業時間外学修

講義内容をよく復習して、５月 21 日に臨む

担当教員（内線、メールアドレス）：

医学教育センター 岡崎 史子 (0425 fokazaki@med.niigata-u.ac.jp)
医学教育センター 福井 直樹 (0425 fukui@med.niigata-u.ac.jp)
医学教育センター Razvina Olga (0425 razvinao@med.niigata-u.ac.jp)

実習ユニット「シミュレーション実習（注射）」

担当教員：岡崎 史子、福井 直樹、Razvina Olga、青木 亜美（医学教育センター）、
小林 暁子（産科婦人科）

日 程：6月30日（月）第1時限 8:30～10:00 第2時限 10:20～11:50

到達目標：

医師のスキルとして重要な皮下注射、筋肉注射についての手技を学び、シミュレータに対して実施する。

アウトカム：

注射の基本的スキルを実践できる

被検者に対して配慮できる

学習方法：

注射の仕方についての知識を修得する

被検者に配慮しつつ、注射を実施する

授業実施形態

対面授業（総合研修棟4階）

授業時間外学修・使用テキスト

皮下注射 <https://www.youtube.com/watch?v=7Bu1Qn3LE5w>



筋肉注射 <https://www.youtube.com/watch?v=tA96CA6fJv8>



講義に参加して学んだ内容を重視し、指定教科書は特に設けない。

担当教員（内線、メールアドレス）：

医学教育センター 岡崎 史子 (0425、fokazaki@med.niigata-u.ac.jp)

グループ学習ユニット「小児の特性」

担当：小児科学

日時：7月2日（水）3限、4限 大講義室、小グループ学習室B（総合研究棟3階）

7月9日（水）3限、4限 第5講義室、第4講義室、大講義室

到達目標：

臨床医学の学習に必要な、胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての成長と発達の生理と病態の基本的知識を修得する。

アウトカム：

1. 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化を説明できる。
2. 新生児の生理的特徴を説明できる。
3. 乳幼児の生理機能の発達を説明できる。
4. 小児の精神運動発達を説明できる。
5. 思春期発現の機序と性徴を説明できる。

学習方法：対面授業

次ページ以降に模式図を示す。

- 1) 「小児医学の基本」について講義（大講義室）を聴講する。
- 2) 小グループ学習室B（総合研究棟3階）に移動し、1班約8名の15グループで、グループごとにリーダー1名、記録者2名、プレゼンター2名、発表会の司会者1名および質問者を決める。
- 3) 「胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化」「新生児の生理的特徴」「乳幼児の生理機能の発達」「小児の精神運動発達」「思春期発現の機序と性徴」の各テーマについて、グループ学習を行う。
5つのテーマの学習すべき事項を抽出し、所定の用紙でグループとしてのレポートを作成し1日目のグループ学習後にチューターに提出する（グループレポート1）。
- 4) 各班に割り振られた1テーマおよび各自が分担した問題点について、抽出した学習すべき事項を中心にして、各自が基礎医学の復習と検索により自習する。
- 5) 各自が分担した問題点については、学習した内容について所定の用紙で個人レポートを作成し、2日目23:59までに学務情報システムより提出する（個人レポート）。
- 6) 各班に割り振られたテーマについては、各自が学習した内容を基にグループ学習を行い、発表形式にまとめる（パワーポイント使用）。
- 7) 各班10分の発表会（第5講義室、第4講義室、大講義室）を行い、他グループからの質問を受け、討議する。発表データはUSB又はPCで持参する。発表会后、2日目23:59までにパワーポイント資料（1ページ6枚の配布資料の形で）をグループごとに学務情報システムより提出する。（グループレポート2）
- 8) 「小児の発達」について全員で講義を聴講する。

学習方法

1. 5テーマの問題点の抽出 ⇒ グループレポート 1

- 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化
- 新生児の生理的特徴
- 乳幼児の生理的特機能の発達
- 小児の精神運動発達
- 思春期発現の機序と性徴

2. グループテーマ(1日目 に公表)の検討・学習

3. グループテーマについての発表

4. グループテーマに関する

個人レポートとグループレポート 2 の提出

担当教員（内線、メールアドレス）：

全般担当

今村 勝 (2222/2217、mimamura@med.niigata-u.ac.jp)

講義担当

齋藤 昭彦 (2215、asaitoh@med.niigata-u.ac.jp)

大野 武 (2222、takeono@med.niigata-u.ac.jp)

タイムスケジュール 1日目

イントロダクション(大講義室)

担当: 齋藤 昭彦

13:00~13:15

グループワーク(各グループ教室)

13:15~14:30

⇒役割分担表提出

5 テーマ全ての問題点をあげる

グループレポート1 提出

グループテーマの発表、準備
各問題点の分担(個人レポート準備)

14:50~16:20

1日目終了

タイムスケジュール 2日目

第 4、5 講義室、大講義室に分かれて発表 担当: 各チューター

グループテーマに関する発表:(発表 7 分、質問 3 分、計 10 分)

1. 胎児の循環・呼吸の生理的特長と出生時の変化
2. 新生児の生理的特徴
3. 乳幼児の生理機能の発達
4. 小児の精神運動発達
5. 思春期発現の機序と性徴

13:00~14:30

大講義室に集合

小児の特性(成長)と発達 担当: 大野 武

14:50~15:50

2日目終了

1. グループレポート 1（グループで 1 編提出）

できるだけ多くの問題を多面的に挙げる

Key word があります：それを挙げていれば加点！

例）老人医療なら・・・生活習慣病、癌、血管障害など

Key word は発表後にお伝えします。

2. 個人レポート（各個人で 1 編提出）

3. グループ発表（グループレポート 2）

内容はもちろん、アピール度も評価します。

時間管理も重視します（発表 7 分、質問 3 分、計 10 分で）。

（レポートの締め切り）

1. グループレポート 1（グループで 1 編提出）

できるだけ多くの問題点を挙げてください。

- ・胎児の循環、呼吸の生理的特徴と出生時の変化
- ・新生児の生理的特徴
- ・乳幼児の生理的機能の発達
- ・小児の精神運動発達
- ・思春期発現の機序と性徴

締め切り 1 日目 14:30

⇒各チューターへ

2. 個人レポート（各個人で 1 編提出）

グループテーマに関する問題点を各自分担して

個人レポートとしても良いし、

グループテーマ以外の内容でも良い。

締め切り 2 日目 23:59

⇒学務情報システムへ

3. グループレポート 2（グループで 1 編提出）

パワーポイント資料（6 スライド/枚）

締め切り 2 日目 23:59

⇒学務情報システムへ

役割分担表

グループ学習ユニットB 小児の特性（成長と発達）

グループ 第_____班

*在籍番号と氏名を記入すること。
全員がいずれかの役割を担当する。

リーダー： _____

パワーポイント作成係：

発表係： _____

質問係： _____

司会者： _____

グループ学習ユニットB 小児の特性 (成長と発達)

グループ番号_____班

以下の各テーマの学習すべき事項・問題点を挙げてください

1) 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化

2) 新生児の生理的特徴

3) 乳幼児の生理機能の発達

4) 小児の精神発達・運動発達

5) 思春期発現の機序と性徴

統合臨床医学コース 個人レポート提出用

グループ学習ユニットB 小児の特性（成長と発達）

グループ _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

グループのテーマ： _____

個人テーマ： _____

内容：

講義ユニット「高齢者の運動器」

担当教員：大橋 正幸（医学部：整形外科、医歯学総合病院：総合リハビリテーションセンター）

日 程：6月3日（火）第1時限 8:30～10:00

到達目標：

高齢者社会の現状と医療に何が求められているかを学ぶ。

アウトカム：

1. 高齢化率、前期高齢者および後期高齢者について説明できる。
2. 日本における高齢者人口の推移を説明できる。
3. 健康寿命について説明できる。
4. 加齢による心身機能の変化を説明できる。
5. 高齢者に対する包括的医療について説明できる。

学習方法：

- 1) 1コマを90分として1コマで構成されている。
- 2) 講義 対面授業（大講義室）

概要：

日本では短期間で高齢化が急速に進み、さらに今後高齢者人口は一層の増加が予想されている。このような状況の中、寝たきりでなく、自立した生活である「健康寿命の延伸」が社会においても家庭においても望まれている。

高齢者の疾患・病態の特徴は、内臓器障害（機能低下）があることはもちろんであるが、多くの高齢者では認知機能障害、運動器能障害、感覚器（視力、聴力）障害、摂食・嚥下、栄養面での障害、心理面での障害があることであり、包括的に総合的に評価することが重要である。その中でも運動器の障害（ロコモティブシンドローム）は移動能力の低下をきたし、要支援・要介護となる原因の25%を占めており、その対策が急務である。

さらに生活環境（家庭、施設など）を考慮したゴールを設定し、リハビリテーション（運動療法）と生活支援を多職種連携で進め、患者さん自身が能動的に自立して身体活動を維持・改善できるような医療が求められている。

担当教員（内線、メールアドレス）：

整形外科 大橋 正幸（2272、masayuki-ohashi@med.niigata-u.ac.jp）

講義ユニット「高齢者の循環器」

担当教員：猪又 孝元 循環器内科

日 程：5月29日（木）第3 時限 13:00～14:30

到達目標：

臨床医学の学習に必要な、加齢・老化に伴う生理的变化と高齢者の特異性を、循環器系臓器を介して理解する。

アウトカム：

1. 加齢に伴う循環器系臓器の構造と機能の変化を説明できる。
2. 高齢者における疾患の特異性を説明できる。
3. 超高齢化社会に伴い急増する心不全の病態と治療の概略が理解できる。

学習方法：講義 対面授業（大講義室）

担当教員（内線、メールアドレス）：

循環器内科 猪又 孝元（2182、inotaka@med.niigata-u.ac.jp）

講義ユニット「臨床検査の基礎知識」

担当：医歯学総合病院検査部

到達目標：臨床医学に必要な臨床検査の基礎知識を修得する。

アウトカム：

1. 病態を推測する基本的検査の意義を説明できる。
2. 臨床検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率、予測値、尤度比）と判定基準（基準範囲、検査値の生理的変動、カットオフ値、治療目標値、パニック値）を説明できる。
3. 血液学的検査、尿・便検査、免疫学検査、遺伝学的検査、生化学検査、動脈血ガス分析、微生物検査、生理学検査の主要な項目について、検査の方法と適応を説明し、検査結果を解釈できる。

学習方法：対面講義（大講義室）を聴講する。

講義毎に小テストを行う。

成績評価の方法：出席状況と小テスト等で総合的に評価する。

担当教員（内線、メールアドレス）：

検査部 大橋 瑠子（2096、riuko@med.niigata-u.ac.jp）

検査部 高山 亜美（2185、takayama-c@med.niigata-u.ac.jp）

検査部 尾方 英至（025-368-9325、h-ogata@med.niigata-u.ac.jp）

講義予定表

月日	曜日	時間	内容	担当教員
5月19日	月	8:30～10:00	検査医学総論	大橋 瑠子
5月19日	月	10:20～11:50	検査医学総論	大橋 瑠子
6月9日	月	8:30～10:00	血液学検査、尿・便検査	大橋 瑠子
6月9日	月	10:20～11:50	免疫学検査、遺伝学的検査	大橋 瑠子
6月16日	月	8:30～10:00	生化学検査、動脈血ガス分析	尾方 英至
6月16日	月	10:20～11:50	微生物検査	尾方 英至
6月23日	月	8:30～10:00	生理学検査	高山 亜美
6月23日	月	10:20～11:50	臨床検査の特性	高山 亜美

講義ユニット「放射線医学」

担当：放射線医学教室

到達目標：

臨床医学の学習に必要な放射線医学の基本的知識を修得する。

アウトカム：

- ・画像診断（X線を用いた検査、超音波検査、MRI検査）の原理を説明できる。
- ・各領域（頭部・胸部・腹部・骨盤部）の正常画像解剖を説明できる。
- ・放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。
- ・放射線障害と防護を説明できる。
- ・核医学検査の読影の原理を説明できる。

学習方法：

1. 講義

- ・「放射線医学総論・放射線治療学総論（生物学・腫瘍学）」、「放射線物理学」、「放射線診断学総論」、「画像解剖」について、講義を聴講する。対面授業（大講義室）

2. 筆記試験

- ・最後の講義の時間内に、放射線治療学総論（生物学・腫瘍学）・放射線物理学・放射線診断学総論・画像解剖の講義内容から筆記試験を行う。

担当教員（内線、メールアドレス）：

・放射線診断学総論、画像診断

石川 浩志（2315、iskw@med.niigata-u.ac.jp）
淡路 正則（2315、ahadi@med.niigata-u.ac.jp）
堀井 陽祐（2315、y-horii@med.niigata-u.ac.jp）
山崎 元彦（2315、myamazak@med.niigata-u.ac.jp）

・放射線治療学総論、放射線物理学

海津 元樹（2315、kaidu@med.niigata-u.ac.jp）
太田 篤（2315、aohta@med.niigata-u.ac.jp）
中野 智成（2315、t-nakano@med.niigata-u.ac.jp）
棚邊 哲史（2315、s-tanabe@med.niigata-u.ac.jp）

タイムスケジュール

期日	時間	授業内容
5/23 (月)	13:00 ～ 14:30	放射線医学総論・放射線治療学総論 (生物学)
5/23 (月)	14:50 ～ 16:20	放射線診断学総論
6/ 6 (月)	13:00 ～ 14:30	放射線治療学総論 (生物学)
6/ 6 (月)	14:50 ～ 16:20	放射線物理学
6/11 (火)	8:30 ～ 10:00	放射線治療学総論 (生物学)
6/11 (火)	10:20 ～ 11:50	放射線診断学総論
7/ 3 (月)	13:00 ～ 14:30	画像解剖
	14:30 ～ 14:50	休憩
	14:50 ～ 16:20	筆記試験

*授業内容に関する詳細は後日連絡します。

講義ユニット「薬害被害者の声を聞く」

担当教員：茂呂 寛（感染管理部）

日 程：7月15日（火）第3時限 13:00～14:30

到達目標：

薬物治療には副作用という負の側面が存在し、過去にも薬害という形でたびたび問題となっている。

実際に薬害の被害に会った患者を外部講師として招き、直接の声を聞くことにより、なぜこのような事態が起きたのか、再発をどうすれば防げるのか、自身の医学への取り組みを見つめ直す機会とする。

「医学の専門的な知識」「保健・医療・福祉への貢献」「倫理性と人間性」に関して知識、態度、スキルを示すことを目標とする（基盤レベル）。

アウトカム：

1. 過去にどのような薬害が生じていたのか説明できる。
2. HIV 感染症など薬害被害の病態を説明できる。
3. 薬害患者に対する救済措置について具体的に説明できる。

学習方法：

- 1) 1 コマを 90 分として前半と後半の 2 部で構成されている。
- 2) 前半部分で、薬害被害者ご自身の講演を聞く。
- 3) 後半部分で補足として、薬害被害の概要、HIV 感染症の基本的事項、今後の課題に関する講義を聴講する。

授業実施形態

対面授業（大講義室）

授業時間外学修・使用テキスト

講義に参加して学んだ内容を重視し、指定教科書は特に設けない。

授業時間外の学習：授業を復習し、レポートを提出する。

担当教員（内線、メールアドレス）：

感染管理部 茂呂 寛（0884、hmoro@med.niigata-u.ac.jp）

講義ユニット「薬物治療の基礎知識」

担当教員：外山 聡（薬剤部）、金光 祥臣（薬剤部）

日 程：7月11日（金）第4時限 14:50～16:20

7月15日（火）第4時限 14:50～16:20

到達目標：

疾患治療に必要な医薬品の薬（剤）学の基本的知識を修得する。

アウトカム：

1. 薬効と医薬品の剤形との基本的知識を説明できる。
2. 薬物送達機構（ドラッグ・デリバリー・システム）（DDS）の基本的知識を説明できる。
3. 薬物と薬物および薬物と飲食物等との相互作用についての基本的知識を説明できる。
4. 副作用の概念とその回避方法についての基本的知識を説明できる。
5. 科学的根拠に基づく薬効評価とレギュラトリーサイエンスの基本的知識を説明できる。

学習方法：

講義 対面授業（大講義室）

講義の後に小テストを実施する。

担当教員（内線、メールアドレス）：

外山 聡（薬剤部 2782、toyama@med.niigata-u.ac.jp）

金光 祥臣（薬剤部 2248、ykanemitsu@med.niigata-u.ac.jp）

実習ユニット「看護実習」

担当者：團原 一恵（看護部長）、各病棟看護師長、他看護スタッフ

到達目標：

全人的医療の実践を目標とした臨床実習を円滑に行うために、看護実習を通し、チーム医療における看護の機能や連携・協働・補完のあり方を理解するとともに、医療人としての基本的な態度を習得する。

アウトカム：

1. チーム医療における看護の機能や連携・協働・補完の重要性について説明できる。
2. 看護師の指導のもとに、基本的看護技術の一部を実施できる。
3. 看護師と行動を共にし、ケアリングの一部を実施できる。
4. 患者や医療チームメンバーとの基本的なコミュニケーションができる。
5. 患者の抱える不安や苦痛の理解につながる行動ができる。
6. 身だしなみ、挨拶、言葉使い等、医療人として信頼される身なりや行動ができる。

学習方法：

1. 講義①「どうして医療関連感染対策をしなければならないのか？」を聴講する。
(感染管理部 茂呂担当)
講義②「チーム医療における看護の役割」を聴講する。班ごとに病棟ガイダンス（病棟の概要説明、患者紹介等）を受ける。
2. 看護師と行動を共にしながら看護活動を見学し、指導のもとに基本的看護技術の一部を実施する。ケアリングについて理解し、一部を実施する。

実習項目：

引き継ぎ見学、カンファレンスへの参加、入院時オリエンテーションの見学、看護計画の立案および看護記録等の見学、退院指導の見学、食事・清潔・排泄等の援助、苦痛や不安への援助、血圧・脈拍・体温等の測定及び電子カルテ入力の見学、注射・与薬準備の見学、手術前後の準備の見学、検査・処置介助の見学、医師および他職種との連絡・調整、ICへの同席・援助、その他

3. 班毎にカンファレンスを行ない、学んだことを共有し深める。「テーマ」は、各班で設定する。
4. レポートを提出して評価を受ける。
 - ・テーマ「看護実習を通して学んだこと」
 - ・様式：A4 版レポート用紙、横書き 800 字程度
 - ・提出先：実習病棟看護師長
 - ・期限：6 月 13 日（金）

担当教員（内線、メールアドレス）：

看護部 團原 一恵 (hitoedan.fn9@nuh.niigata-u.ac.jp)

実習ユニット 時間割

日付	5/20(火)	5/26(月)		5/27(火)		5/28(水)		5/29(木)
時間	8:30 ～ 11:50	8:30 ～ 11:50	13:00 ～ 16:20	8:30 ～ 11:50	13:00 ～ 16:20	8:30 ～ 11:50	13:00 ～ 16:20	14:50 ～ 16:20
場所	大講義室	各病棟		各病棟		各病棟		大講義室
学習 方略	1	2	3	3	3	3	4	
学習 内容	病棟ガイ ダンス	看護 実習	看護 実習	看護 実習	看護 実習	看護 実習	カンファ レンス	看護実習を 振り返る

※ 病棟にはグループ単位で配属される。グループ分けは新学期になってから連絡する。

看護実習の心得

○ 本院で実習を行う実習生に厳守していただくこと

1. インフルエンザ発症者（疑いも含む）は、発症日（発症日を0日とする）から5日を経過し、かつ、解熱後（解熱日を0日とする）2日を経過するまでは実習を行わない。
※ 実習開始後、発症日から7日を経過するまではサージカルマスク着用の上、実習を行う。この間、指導教員は、ハイリスク患者と接触しないように調整する。
2. 実習中は、毎日2回（朝・夕）に検温と症状（咳、のどの痛み、鼻水、関節痛、その他インフルエンザを疑わせる症状）をチェックする。
※朝は自宅で測定する。
3. 37.5℃以上の発熱がある場合は直ぐに実習を中止し、指導教員に報告する。
4. 37.4℃以下の発熱であっても、咳、のどの痛み、鼻水、関節痛、その他インフルエンザを疑わせる症状がある場合は実習を中止し、指導教員に報告する。

○ 指導教員が実習生と協議・確認の上、実習において措置していただくこと

1. インフルエンザ発症者（疑いも含む）との濃厚接触が確認できる実習生が、接触後7日以内に、37.0℃以上（かつ37.4℃以下）の発熱があるものの、インフルエンザ症状がない場合、サージカルマスク着用の上、実習可能であるが患者と2m以内では接触しない（ベッドサイドには行かない）。
2. インフルエンザ発症者（疑いも含む）と濃厚接触が確認できる実習生が、37.0℃以上の発熱がなく症状もない場合は、サージカルマスク着用の上、実習を行う。

○ 実習生がインフルエンザを発症した場合、当該実習生が担当した患者に対して行う措置

1. 実習生がインフルエンザを発症した場合、当該実習生が接した患者への説明は担当指導教員及び臨床現場の実習責任者並びに主治医とで行う。
2. 発症した実習生が患者接触時にマスクを着用している場合は、患者に対して接触者対応は不要である、経過観察を行う。マスクを着用していない場合は当該患者を濃厚接触者として対応する。

留意事項

1. 本院において、上記の対策をしていただく期間は、インフルエンザ流行期とする。
2. 濃厚接触とは、発症者と2m以内の範囲で会話したり、飛沫をあびた場合とする。

講義ユニット「医療事故と医療安全」 (科目英文名 Patient Safety)

担当教員：鳥谷部 真一

日 程：4月7日（月）第1時限 8:30～10:00

6月3日（火）第2時限 10:20～11:50

概要

医療行為は、人間（患者）という不確実な存在を相手にして、不完全な人間（医療者）が行うものである。本来医療行為は患者の疾病や障害などを改善しようという意図で行うものだが、その意図に反して患者の障害につながってしまうことがある。その結果、不幸にして患者との信頼関係が崩れたり、医事紛争につながることもすらある。こうした医療行為による障害の実態や原因を学ぶとともに、医療行為による障害（医療事故）を少しでも減らすためにはどのようなことを心がけるべきかを学ぶ。

科目のねらい

患者を診療する上で、医療事故や医療安全管理に関する知識は必要不可欠である。医学生は臨床実習などで患者の診療を経験し、卒後臨床研修を経て、将来は臨床医を志す者も多い。そのため、医療事故と医療安全管理に関して、基本的な事項を理解することを本科目のねらいとする。

到達目標

医療事故に関わる用語を明確に理解し、医療事故やインシデントの疫学、発生原因、再発防止策、報告制度について概略を理解する。

授業計画

1. 医療事故および医療安全管理
2. ヒューマンファクターとヒューマンエラー

授業実施形態

対面授業（大講義室）

成績評価の方法と基準

1. 出席状況と課題レポートの内容で総合的に評価する。

担当教員（内線、メールアドレス）：

医療安全部 鳥谷部 真一 (0375、toyabe@med.niigata-u.ac.jp)

グループ学習ユニットA「外科的手技・処置の基礎知識」

担当：第一外科学教室、第二外科学教室、小児外科学教室、麻酔科学教室、
輸血・再生・細胞治療センター

到達目標：

臨床医学の学習に必要な、「創傷治癒とその管理/出血の対処」、「麻酔と周術期管理」、「輸液・栄養療法」、および「輸血と移植」の基本的知識を修得する。

アウトカム：

「創傷治癒とその管理/出血の対処」

- ・創傷治癒を説明できる。
- ・創傷処置（止血法を含む）を説明できる。

「麻酔と周術期管理」

- ・バイタルサインを説明できる。
- ・麻酔の種類および合併症を説明できる。

「輸液・栄養療法」

- ・輸液（点滴）・経静脈栄養を説明できる。
- ・栄養療法としての中心静脈栄養と経腸栄養を説明できる。
- ・高齢者医療におけるサルコペニア・フレイルの重要性を説明できる。

「輸血と移植」

- ・輸血の種類とその適応を説明できる。
- ・成分輸血を説明できる。
- ・臓器移植について説明できる。

学習方法：

＊4月14日（月）（08:30～11:50）：グループ学習の説明・テーマの割り当てと個人レポートの作成
総合研究棟3階小グループ学習室Bに集合

1. 「創傷治癒とその管理/出血の対処」「麻酔と周術期管理」「輸液・栄養療法」「輸血と移植」の4つのテーマのうちチューターにより割り当てられた1つのテーマにつき、グループ（全12グループ）でリーダー、記録者、プレゼンター、発表会の司会者を決めて討議し、そのテーマについて「学習すべき事項」を抽出する。
2. 「学習すべき事項」につき、各自が基礎医学の復習と検索とにより自習する。
3. 各自が学習した内容について所定の用紙で「個人レポート」を作成し、チューターに提出する（1日目の11:50までに提出すること）。
4. そのテーマに関してチューターが提示する「まとめるべき事項」についてグループ学習を行い、所定の用紙を用いて「グループレポート」を作成し、チューターに提出する（2日目の9:30までに提出すること）。
5. そのテーマについてグループで討議し、協力して発表形式にまとめる（パワーポイント）（発表は2日目の8:30～9:30）。2日目のプレゼン当日は、コンピューター準備のため、USBに入れたパワーポイントデータを8:25までに担当チューターに提出すること。

*4月21日(月)(08:30~11:50):4グループずつ3会場に分かれて集合

- 1) 第1班~第4班:大講義室に集合
- 2) 第5班~第8班:第4講義室に集合
- 3) 第9班~第12班:総合研究棟 3F 中講義室(2つ)

6. 3会場それぞれ4グループが4つのテーマについて発表会を行う。他グループからの質問を受け、討議する。司会は司会者が行う。担当教員からも適宜コメントをもらう(8:30~9:30:発表時間10分、質疑応答5分)。グループレポートを9:30までにチューターに提出する。

7. 全員が大講義室に集合して、各テーマについて7人の教員から講義を聴講する。質疑応答も行う。
講義の担当は、「創傷治癒と管理/出血の対処」:呼吸循環外科学教室、消化器・一般外科学教室、「麻酔と周術期管理」:麻酔学教室、「輸液・栄養療法」:消化器・一般外科学教室および小児外科学教室、「輸血と移植」:輸血・再生・細胞治療センターおよび小児外科学教室である。(9:40~11:35)

8. グループ学習ユニットAの小テストを行う。(11:35~11:50)

担当教員(内線、メールアドレス):

*グループ学習ユニット全般に関する質問:

第一外科 坂田 純 (2228、jsakata2@med.niigata-u.ac.jp) まで

*各テーマに関する個別の質問:下記担当教員まで

「創傷治癒とその管理/出血の対処」

呼吸循環外科(創傷治癒とその管理) 杉本 愛 (2243、asgimoto@med.niigata-u.ac.jp)

消化器・一般外科(出血の対処) 坂田 純 (2228、jsakata2@med.niigata-u.ac.jp)

「麻酔と周術期管理」

麻酔科 山本 知裕 (2328、yamamoto270@hotmail.com)

「輸液・栄養療法」

消化器・一般外科(成人/栄養/輸液) 島田 能史 (2228、shimaday@med.niigata-u.ac.jp)

小児外科(小児/経腸栄養) 荒井 勇樹 (2258、arai@med.niigata-u.ac.jp)

「輸血と移植」

輸血・再生・細胞治療センター(輸血) 布施 香子 (2735、kyo-fuse@med.niigata-u.ac.jp)

上村 正己 (2735、kamimura2-nii@umin.ac.jp)

小児外科(移植) 小林 隆 (2228、kobataka@med.niigata-u.ac.jp)

講義ユニット「English Communication Skills」

担当教員：Olga Razvina（医学教育センター）

日 程：6月10日（火）第2時限 10:20～11:50

7月29日（火）第1時限 8:30～10:00

科目の概要：

医療現場で重要となるコミュニケーションスキルの修得に重点を置く。将来、必要な業務を英語で遂行し、医師と患者の関係を確立し、それを維持するために必要となる語学力と対人スキルを向上させる。医師と患者間の生産的な相互コミュニケーションにおいて、その重要性を示す。症状の聞き取りから身体診察まで、英語で、状況に応じて細やかに対処する術を学ぶ。

科目のねらい：

このクラスは、コミュニケーションを構成する5つのコンポーネントに焦点を当てる。

1. 会話型コミュニケーションスキル (Spoken communication skills)

効果的な会話術で患者との誤解を避け、診察や診断の際に患者が理解し易い言語を用いる能力を高める。

2. 非言語コミュニケーションスキル (Non-verbal communication skills)

ボディランゲージの重要性を理解し、患者からの身体的および心情的な手がかりを読み取り、言語および非言語コミュニケーションを使用して患者との相互理解を図る。

3. アクティブリスニングスキル (Active listening skills)

診断を行うために、実際に患者の話を聞き、受け取った情報を理解していることを相手に示すテクニックを用いて、医療面接を正しく行う方法を学ぶ。

4. ボイスマネジメントスキル (Voice-management skills)

患者と接触する際のイントネーションのテクニックとアクセントを学ぶ。

5. 文化的認識 (Cultural awareness)

患者の文化的特徴と、文化的背景が患者と医師の相互関係に及ぼす影響について理解を深める。

到達目標：

1. 患者への挨拶、自己紹介、治療過程での自身の役割を説明し、開放型の質問から対話を開始し、検査の方向性を設定することができる。
2. 正確な既往歴と症状を収集し、復唱や確認等の手法を用いて会話を円滑に進めることができる。
3. 検査手順を患者に説明し、患者が理解できるよう効果的な指示を与えることができる。

授業実施形態：

対面授業（大講義室）

授業時間外学修・使用テキスト

講義に参加して学んだ内容を重視し、指定教科書は特に設けない。

授業時間外の学習：授業を復習し、小テストを実施する。

担当教員（内線、メールアドレス）：

医学教育センター Olga Razvina (2063、razvinao@med.niigata-u.ac.jp)

